AGRI（アグリ） WORK（ワーク） POINT（ポイント）

みかん 後期摘果で品質向上

果樹林産センター　小柳 博明

9月の管理

摘果と病害虫防除が主な作業になります。収穫までの限られた時間を有効に活用し、高品質果実の生産に努めましょう。

着果管理

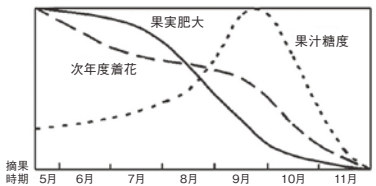
図のように9月になると養分の使われ方が、果実の肥大や枝、根の生長から果汁蓄積に移り始めます。この時期に摘果作業を行うことで、果実の肥大をある程度抑え、残した果実に養分が集まり、果実品質の向上が見込めます。ただし、摘果の時期の遅れや長期間にわたって実施すると、品質向上効果が少なくなります。光合成が盛んな期間に養分を効率良く果実に集中させるためにも、後期摘果は集中して短期間で実施してください。

摘果時期

果面が滑らかになった9月中旬頃から10月中旬までに行います。品質向上のため、1樹を短期間で30～35枚／1果の適正葉果比に近づけましょう。

摘果をする果実

極小玉果、極大玉果、内スソ果、キズ果、腰高果等



図：摘果時期が果実肥大、果汁糖度、次年度着花に及ぼす影響
（青島温州のすべて より）

マルチ被覆後の管理

マルチ被覆後は、強い水分ストレスがかかります。早朝に葉が巻いている場合は、過度な乾燥状態なので、マルチをめくり雨水を入れるか、かん水などを行ってください。

病害虫防除

9月以降のミカンハダニの被害は、収穫時の果実に残ります。また、温暖化により、その他の病害虫の発生時期も伸びている傾向にあるので、園地を良く観察し、適期防除に努めてください。

黒点病　ペンコゼブ水和剤　500倍（30日－4回）

チャノキイロアザミウマ

スタークル顆粒水溶剤　2000倍（前日－3回）

ミカンハダニ

ダニコングフロアブル　4000倍（前日－1回）

または、

ダニエモンフロアブル　5000倍（7日－1回）

果皮障害軽減を目的にバイカルティ1000倍を混用散布し、ミカンサビダニが心配される場合は、ダニ剤をダブルフェースフロアブルに変更しましょう。また、黒点病は発病適温が20～27℃で、雨が多いと発生を助長します。黒点病防除後、30日経過するか累積降雨量が250㎜になった時点で薬剤の効果が弱まるので、再防除を行ってください。